

乗船前(活動趣旨)

まず、とうかい号とは公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会の主催する事業として、今年で46回目を迎える国内最大級の研修船事業です。船上という非日常空間の中で、一般団員約240名とJC団員約180名が1週間にわたって様々な研修プログラムを行い、また、今年は台湾での寄港地活動、チームごとに行う研修等により気づきや、仲間を手に入れ地域などに貢献できる人材育成を目的としています。

JC青年の船 [とうかい号] は1974年に愛知ブロック協議会の単独事業 [愛知JC青年の船] としてスタートし、1975年の第2船より、愛知・岐阜・三重・静岡の東海4地区での共同事業となりました。

今回の第46回JC青年の船「とうかい号」では、「誰もが挑戦できる輝く東海の実現~one Tokaiへの航海~」をスローガンに、誰一人取り残されない持続可能な東海の実現をするために利他の精神による判断と行動が可能な青年、社会を変える運動を作り出していく青年、Active Citizenの創出を基本方針として目指しました。

乗船までに3回のオリエンテーションがあり、初回は岐阜市ブロックで乗船者セミナーを行い、2回目は岐阜県全体の参加者が集まる岐阜ブロック交流会が池田町総合体育館で開催されました。3回目は参加者全員が集まる団結式が名古屋市公会堂で行われ、ここで、船上で活動するチームに分かれ、初顔合わせを行いました。この3回のオリエンテーションで上記の趣旨説明や必需品・タイムスケジュールなどの説明が行われましたが、研修内容等は毎年変わるため、乗船前は正直不安な気持ちもありました。

研修内容

船内活動としては、講師の方による研修とその講師の方の講演を受けてチームで行う研修と寄港地活動に関する研修があります。その3種類の研修が7時から始まるラジオ体操をスタートに、23時までみっちりと計画されており、過酷なスケジュールでした。

講師の方による研修では、まず、持続可能な開発目標(SDGs)に関連した研修が行われました。私はとうかい号に乗船するまで「持続可能な開発目標(SDGs)」に関しての知識はほぼありませんでしたが、「持続可能な開発目標(SDGs)」とは、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年~2030年の15年間で達成するために掲げた目標で、17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されているもので、国際的な、そして地球規模での目標であることを知







りました。そして、現在、地球環境が危機的状況に差し迫っている可能性が十分にあることを知り、今、我々に何ができるのか、何をしなければいけないのかを考え、今後の生活につなげていきたいと感じました。





イベント

船上活動中には研修のほかにも色々なイベントがありました。

まず最初に、乗船した初日に船長主催のウェルカムパーティーが開催され、まだお互いを知らないチームメイトと打ち解けるきっかけとなりました。また、2日目にブロックナイトという各出身県ごとに分かれて交流するイベントもあり、そこでは岐阜市だけでない他の地域の方々と交流することもでき、楽しい時間を過ごさせていただきました。



寄港地 台湾

乗船4日目に寄港地である台湾に到着し、入国手続きを行い下船後、台湾の中学生の方々と共に現地でのシンポジウムが開催されました。そこで、日本・台湾における現状の把握、SDGsに関する各企業の取り組

みなどの発表があり、そして、台湾の中学生との交流会を行いました。そこでは、世

界規模でのSDGsへの取り組みの重要性を感じました。

その後、台湾のビーチへ移動しSDGs活動の一環としてビーチクリーン活動を行いました。浜辺には多くのビニール・プラスチックごみが落ちており、今問題となっているマイクロプラスチック問題を肌で感じることができました。環境問題の深刻さを学びその夜に再び乗船し台湾を離れました。短い時間ではありましたが内容の濃い寄港地活動となりました。





チーム活動の集大成

乗船6日目にはフェスティバルという今までのチームでの研修で作り上げたものを発表し、競い合うイベ

ントがあります。そこでは、今までの講師の方の 研修や寄港地活動での研修で学んだことを劇・ダ ンス・歌など、どんな形式でもいいので、形にし て発表を行います。

限られた短い時間で何もないところから、チーム25名で話し合い、意見を出し合い、作り上げていかなければならず、作品作りはかなり急ピッチ

で進めなければなりませんでした。発表前日の夜に「本当にこのままでいいのか?」という意見が出て、一時、チーム崩壊の危機を迎えましたが、話し合い、意見を交わしていく上で解りあい、協力しあい、一致団結し発表を迎え、みな笑顔で終えることができました。そして、最優秀賞を受賞することができました。チームメイトと、お互いを思いやり、解りあうことができ、団結できる。その成果が最優秀賞という形で表せることができうれしく思いました。







研修を終えて

乗船前までは、正直不安でしかありませんでしたが、この7日間は本当にあっという間で、振り返って みれば乗船中は本当に楽しく過ごすことができました。

研修中は過酷なスケジュールや、チーム内での本音でぶつかる話し合いなど大変なこともありましたが、かけがえのない仲間と呼べる存在ができたと思います。各研修で学んだことを自分への財産に変え、これからの仕事や日常生活に生かしていきたいと感じております。

最後に、このような貴重な時間をくださった会社の皆様、送り出してくださった方々には多大なご支援をいただきましたことに大変感謝いたします。本当にありがとうございました。